

令和元年度 第2回吹田市シティプロモーションアドバイザー会議 議事要旨

1 日時：令和元年11月18日（月）15：00～17：00

2 会場：吹田市役所 中層棟4階 第4委員会室

3 出席委員

北詰恵一 委員長（関西大学 環境都市工学部都市システム工学科教授）

佐賀健太郎 副委員長（吹田商工会議所 青年部 周年事業部会長）

伴晴香 委員（サンケイリビング新聞社北摂事業部 編集長）

片岡誠 委員（市民ネットすいた 理事・事務局長）

内海美保 委員（近畿経済産業局 地域経済部 次長（頑張る自治体応援隊 大阪北部担当））

小松紫穂里 委員（市民委員）

4 出席職員

井田部長、原山理事、淵上参事、白澤主幹、高島主査、四方主任

5 傍聴者

なし

6 案件

(1) 前回いただいた意見と市の考え

(2) シティプロモーションホームページ

(3) シティプロモーションワークショップ

(4) 令和2年度の主な取組

(5) その他ご意見、感想

7 主な意見等

【案件(1)について】

(案件(1)について事務局から説明)

(委員長)

政策ターゲットの話においては、市の施策なので市民全体にしなければならない、ということがよくあるが、実際にシティプロモーションを行う際にはターゲットを絞らなければ相手に響かない。そういった議論を前回していた、という再確認をしていただけたかと思う。

【案件(2)について】

(案件 (2) について事務局から説明)

(委員)

吹田市のホームページとシティプロモーション用のホームページがあるが、差別化の意図がどこにあるのか分かりにくいと感じている。

第3階層に「吹田市の交通」「歴史」「子育て・教育」のページがあるが、この内容は吹田市ホームページでも出てくる内容。「暮らしの場面」の「健」～「活」や「データで見る吹田」も何らかの形で吹田市ホームページにある情報だと思う。こうやって見ると、シティプロモーションホームページは現在の吹田市ホームページの情報を組み替えただけだ。そういうことであれば、シティプロモーションホームページを吹田市のホームページにしまえばいいのではないか。

行政機関のホームページはどこを見ても大体同じ。せっかくシティプロモーションホームページを作るのであれば、根本から考えを変えて、行政機関のホームページに見えないような作りこみをしたほうが、シティプロモーションの価値を上げるのではないか。

(副委員長)

今のご意見もわかるが、吹田市のホームページとシティプロモーションホームページは役割が異なると思う。シティプロモーションホームページに実際に必要な行政情報を取得しにくる人はいない。あくまでシティプロモーションホームページは、吹田市の良さを知ってもらう導入部分。今の吹田市ホームページで、シティプロモーションの情報を全面に出すと、その情報が必要ない人もたくさんいるので、苦情が来るのではないか。シティプロモーションホームページは吹田に住み始めたばかりの人や、これから住むことを考えている人にとって有益な情報が入っているのだと思う。

シティプロモーションについては、デザインのトーンを合わせてブランドを作っていくということが大切なので、市のホームページとは違う物にしているのだと思う。

(委員)

シティプロモーションのページをトップページにしたほうが良いと考えている。このページについては、どれだけの人が見てくれるのか、ということが気になっている。また「吹田市」と検索した時に、吹田市のホームページとシティプロモーションのページのどちらが上に出てくるのか。良い物を作るのであれば、シティプロモーションホームページが上に出てきてほしい。

(委員長)

今の話は、2点意味があって、1つはページの階層構造の話、もう1つは検索エンジンの話でヤフーやGoogle等の検索で上位にあがってくるようにするのは、別の努力が必要だと思う。前半の階層構造の話で、シティプロモーションホームページが市のホームページの上にくるというのは可能なのか。

(事務局)

物理的には可能。たまに他の自治体ページで見かけるが、市のサイトを開くと、まず最初にシティプロモーションのページを見るか、行政情報のページを見るかという選択ができるものがある。委員がおっしゃったのは、そのようなイメージだと思う。

(委員)

私のイメージでは、吹田市ホームページのトップページにバナーがあって、そこをクリックすればシティプロモーションのページに飛べる仕組み。

(事務局)

おっしゃるように、吹田市ホームページにバナーを貼る予定だ。

(委員長)

税金の手続きを調べにきた人にとって、シティプロモーションページは欲しい情報とは異なると思う。吹田市ホームページにシティプロモーションホームページのバナーが存在感を出して貼られているくらいがちょうどいいのではないか。

ページの見せ方についてはもっと議論の余地がある。ある意味、この階層構造は一般的過ぎるかもしれない。例えば見せたいところに直接行けるように、第2階層を飛ばしていきなり第3階層へ行けるような作りにしてもいいかもしれない。

(委員)

シティプロモーションホームページのターゲットは、これから吹田市に住むことを検討している人なのか。

(事務局)

それもあるが、吹田市のシティプロモーション自体のターゲットが、今吹田市に住んでいる人なので、シティプロモーションホームページも今住んでいる人に吹田のことをより深く知ってもらうことを目的としている。

(委員)

これから吹田市に住むことを検討している人を対象にするのと、今吹田に住んでいる人を対象にするのは、目的が全く異なるので両方を対象にするのは難しいのではないか。

外から来る人のためのページを前提に考えると、検索して出てくるだけでは受動的な形になってしまうので、話題となる動画を作成して公開するとか、有名人にPRしてもらおうとか様々な動線が考えられるが、このページにたどり着くための動線をどう考えているのか聞きたい。他市から引っ越してくることを検討している人たちに、このページがどう目に触れられるか、動線をどう考えているのか。

またコンテンツについてだが、吹田市ホームページとの差別化の話もあったが、私は情報が2重になっていてもいいと思う。例えば「育」のページで、当たり障りない情報だけでなく、詳し

い教育についての情報が知りたくなることもあるので、相互リンクはもちろん、情報が両方に掲載されていてもいい。

（委員）

事務的な部分、例えば保育所の入所について詳しく知りたい場合は、事務的な吹田市ホームページにリンクを貼る、という形がいいのでは。

改めて吹田市ホームページを確認したが、本当に事務的なページだ。知りたい情報は載っていて整理されているので、詳しい事務的な情報は吹田市ホームページにリンクを貼ることが良いと思う。

（事務局）

シティプロモーションホームページは写真を多用してデザインを充実させ、興味を引いてページに入ってもらうことを目的としている。そこから、詳しい情報には吹田市ホームページへリンクを貼る形にしたい。

（委員）

情報をどんどん更新していかないとページビューが上がらない。更新をしていく予定のページはあるか。

（事務局）

現状案では、「Instagram」ページで、利用者の投稿内容を紹介していく予定なので、こちらが頻繁に更新していくページとなる。また「暮らしの場面」の各ページも、紹介している事業内容等を見直していくため、年1回になるが更新する予定。

（委員）

先ほど話に出た動線をよく考えたほうがいい。また吹田市ホームページを閲覧している人がどういう経路でページに到達しているか分析すれば、シティプロモーションホームページのページビューを伸ばすヒントになるのでは。

（委員）

リアルな情報があればいい。例えば「吹田版ネウボラ」をただ紹介するのではなく、この事業を利用した市民の声を載せるなど。実際に閲覧する人と情報を結びつけるリアルなストーリーがあるとより良くなると思う。

（委員長）

時間とお金をかければ何でもできるが、職員数が限られている中で市の職員が全てページを更新していくのは限界がある。職員ではない人がページを作っていけるような仕組みがあればいい。

(委員)

私たちが作っているホームページも、他人に頼っている。特派員の仕組みを作って、取材に行ってもらってページを更新してもらっている。自分たちで全て更新はできないので、特派員のような仕組みを作ってもいいのでは。

(委員)

いっそのこと市が作らずに、民間に作ってもらってはどうか。市民からの投稿にしても、民間のページであれば厳密な審査を経ずに掲載できる。市のホームページだと全て確認しなければならなくなる。市民の生きた言葉や内容をそのまま掲載できたほうがいい。月に何回更新しなければならぬ、というような仕様さえ決めておけば手間がかからず更新していける。

(副委員長)

私は吹田にぎわい観光協会の理事もしているが、観光協会は市からの委託で運営しているため、軽いノリで事業はできない。市の委託、という形は難しいと思うので、民間でシティプロモーションのページを運営してくれるところがあるなら、とてもいいと思う。

地方の自治体のプロモーションをする際は、観光に来てほしい、移住してほしい、といった目的がはっきりしていて、そこにお金と時間をかけるのがセオリー。吹田市の現状は、観光や移住を求めている。今吹田市にとって何が大切なのかを考えると、今まで PR がいまいちだったところを、ちょっとずつレベルを上げているところだと思う。小さい話だと市報の表紙が変わった、というだけでも市民の方は、雰囲気が変わったね、となる。「suitablecity」のキャッチフレーズも打ち出して、現在は徐々に良くなっていっている途中で、何か雰囲気が良くなったね、と感ぜられる空気を醸成している過程だと思っている。

シティプロモーションホームページの作成委託は、ページ作成をするだけの業者だと思うが、本当はプロモーション全体をプランニングできる業者が必要だ。事業者を決める前に、ページの企画を一緒にしてくれる人や業者がいればよかった。

(委員長)

今年の 12 月に公開するとのことなので、今根本的なところを議論しても難しいかもしれないが、ホームページは作って公開して終わり、というものではない。ページ更新を誰がするのか、といった課題の根本的解決を公開後でもいいので、徐々にやってもらえればよいと思う。

(事務局)

ページの見せ方を考える、という価値のあるご意見をいただきました。次の課題として更新のやり方があるが、手間をかけられない中で効果的に更新できるコンテンツは何か、を見定めてページを修正していく、というところが目標だと思った。

また、シティプロモーションのプランニングも含めたページ作成をしていくべきとのご意見だったが、ホームページの作成業務に関してそこまではなかなか難しい。このアドバイザー会議の場が、シティプロモーションの方向性を考える場なので、本日いただいたご意見を参考にさせて

いただき、段階的に改善していきたい。

(委員長)

毎年予算をとってページ更新ができれば良いが、市としてそれは難しいかも知れない。少なくとも、ページが何件見られているかといったデータを集めておけば、予算要求の際に役立つかもしれない。

(委員)

せっかくなので吹田市ホームページのトップページの分かりやすいところに、シティプロモーションホームページへのリンクを貼るべきだ。

(委員)

最初に大きく出したほうがいい。

(委員長)

市全体のルールがある吹田市ホームページに、どこまで存在感のあるリンクを貼れるか。シティプロモーションの市における位置付けが高くなってほしいという話につながるが、もっと存在感のあるリンクを貼れるようにチャレンジしてほしい。

(事務局)

吹田市ホームページを管理している部署からは、トップページの「広報ガイド」にリンクを貼ると言われている。

【案件（3）について】

(案件（3）について事務局から説明)

(委員長)

ワークショップの進行や募集の仕方等について、みなさんの知恵を出していただきたい。

(委員)

対象は30歳代以下の想定なのか。

(事務局)

特に対象者を絞る予定はない。

(委員)

「あなたが参加したくなるシティプロモーションの取組」というタイトルではなかなか参加してもらえないと思う。参加者にメリットとなる企画が必要。「シティプロモーション」という言葉自体が聞き慣れないので、一般の人には関係ないと思われる。

(委員)

市民を引き付けるキャッチーな言葉が必要。

(委員)

アイデアを募集するだけなのか、それを実現してくれる人を見つけないのか、ただ集まって話をしてもらえばいいのか、何のためにするのかをはっきりさせたほうがいい。

(事務局)

アイデアをいただきたい。前回のアドバイザー会議でも御意見をいただいたとおり、市民の皆さんと課題を共有する、市の施策と一緒に参加してもらおうということが大事だと考えている。具体的に市民の皆さんに参加してもらおう手法として、例えばワークショップへの参加は勇気がいるが参加したい人もいるし、一方でそこまではできないがツイッターのアンケートに答えるだけならやりたいという人もいる。具体的にどういうことなら参加したいと思うのか、ヒントをいただきたいと考えている。

(委員)

ワークショップに参加できる人に、どこまでなら参加したいと思うか聞くのは難しい。ワークショップ以外にどんなことがしたいか聞く方がいいのでは。

(事務局)

そのために、自分ではない他人を具体的に想定し、その人がどういうことなら参加したいと思うかを話し合っただけで考えてもらいたい。

(委員)

それよりも、参加者の皆さんにシティプロモーションの具体的な企画を考えたほうがいい。その方が参加しがいがあるし、そのあと参加者同士をつないで実際に実現してもらおうことができるかもしれない。アイデアだけもらうのはもったいないと思う。アイデアを出せば自分たちでやりたくなるのでは。

(委員)

出たアイデアがどのように生かされるのか分かるほうがワクワクする。

(委員)

出た意見を市がやる必要はない。参加者の皆さんでやってみますか、と背中を押すだけでいい。

(委員)

それを市がホームページで掲載すればいい。

(委員長)

自分ができることを前提に議論をしたほうが良いという御意見だと思う。

(委員)

テーマを3つぐらい決めてみては。例えば「子育て」「教育」「高齢者」にして、それぞれのグループにどれかひとつを取り組んでもらう。

(委員)

何を使ってプロモーションするか、というテーマで考えてもらってもいい。「公園を使って」「ネットを使って」「施設を使って」など。具体的なほうがいい。

(副委員長)

以前「堂島デザイン会議」という会議を主催していたが、アンカンファレンスをした。アンカンファレンスは、ワークショップのようなものだが、テーマや方向性を決めずに自分のやりたいことを書いて貼っていく。そして、参加者にやりたいことが書いてあるところに集ってもらい、議論するもの。テーマを絞るほど興味のある人が集まる。

最初に「吹田でやりたいこと」まで広げて、SNS等で意見を募っておいて、テーマを絞ってみては。

(委員)

アイデアを出す・企画を練る・実行するの3つのフェーズがあって、実行まですることを前提とした「シティプロモーション実行委員」のチームを組む、としてしまえば参加する人も面白い。実行するまでできると楽しい。

(委員)

「シティプロモーター」を作る取組等も良い。

(事務局)

市民レポーターの取組等も考えているが、そうなる一つの事業、取組となるので、それなりの力を入れなければならない。

(委員)

もっとゆるく考えればいい。途中でやめたい人もいるだろうし「出入り自由」ぐらいのゆるいもので、人数が減ってきたら学生を入れてみる等、行政的に考えないほうがいい。私たちはサロンという形でよくするが、同じ目的意識を持った人が集まると結構盛り上がる。そしてそこで何かが生まれたりする。その後に飲み会をすることもある。シティプロモーションの目的にさえ外れなければいい。

(委員)

そうなるとなおさら、その先にある目的がはっきりしているべき。吹田のまちを楽しく面白くする役割を果たせた、ということが見えるといい。

(委員)

3か月に1回ぐらい集ってもらい、1年間やって成果をホームページに載せる。実際に形になる活動があれば吹田市が後援する、としてもいいのでは。

(委員)

鎌倉市にカマコンという取組がある。市民が課題を話し合っ解決策を練るという会議。毎月60~70人集まる。そのようなキャッチーな言葉をつけて愛着が持てるような取組にしてはどうか。

(委員長)

今までの御意見では、市の考えていたことをかなり変更することになるので、市としては大丈夫か。とりあえず、アドバイザー会議として4~5年続く話として種をまいておいて、来年以降に頑張ってもらおうということでもいい。

(委員)

1回で終わらせるのはもったいないし、何かを実現させることはできない。継続的にすることで何か面白い成果ができるかもしれない。ゴールを設ける必要もなく、途中で分解していってしまうグループもあるだろうが、それでもいい。

(委員長)

アイデアを出す・企画を練る・実行するの3つのフェーズの中で、一番上流の「アイデアを出す」フェーズ、人を集めてアイデアを出す部分だけ市が関わり、後の2つのフェーズはやりたい人にやってもらい、市は広報や活動の形で支援する、という仕組みを最初に示して人を集めるということも考えられる。

(委員)

実行のフェーズでは、やりたい人達が実行してくれる。実行の際に必要な支援は市に求めることもあると思うが。アイデアを出す場の提供は市がしなければならない。アイデアが固まれば、勝手に集まって企画を練るはずだ。企画がまとまる2回目ぐらいまでは短期間での場の提供は必要。

(事務局)

今回のワークショップでは、具体的なことを市民の皆さんにお願いするということではなく、

市民の方と一緒にシティプロモーションに取り組もうとしたときに、気軽なものからしっかり関わるものまで、どの程度なら関わっていただけるかの御意見を探りたかった。

(委員)

ワークショップで意見を聞きたい、という程度なら人が来ないのではないかな。

(委員)

「吹田市の魅力を発信するためのアイデアを持っている人集合」といった呼びかけの方が分かりやすい。行って見て話したいと思わせる言葉が必要。

(委員)

意見が欲しいだけ、というふわっとした募集に40人も人が来るとは思えない。

(事務局)

先に見えるものがある、ということが本当のワークショップだと思う。これまで、シティプロモーション推進室でそこまでの議論ができていなかった。実際にそのようなワークショップをするとすると事業が1つ増えることになる。来年度もそこまでのことを考えて事業立てできていない。

(副委員長)

このようなワークショップに来る人は、時間に余裕のある人か、相当吹田のことを愛している人かのどちらか。年配の方が多いと思うが、そこで出た意見が本当に吹田に有益な意見なのかも含めて考えないといけない。年齢で対象を絞るやり方もある。

(委員)

「わんこ好き集まれ」とすれば散歩事情等言いたいことはあるだろうし、犬の同伴OKにしたら来る人も多いかもしれない。

(事務局)

ビジョンで「市民から魅力が広がる仕掛けづくり」を1つの方針に掲げているが、あまりできていないので、そこに参加してもらえよう意見をいただきたいということが趣旨。

(委員)

小さなテーマで繰り返し行うことも必要。目的意識なくワークショップをすると、単なる座談会で終わってしまう。それなら市民の公聴会でいい。

(副委員長)

地域創生やシティプロモーションで著名な方に講演をお願いすれば、その人目当てで意識の高

い人が来る。その人たちにワークショップをしてもらう方法もある。

(事務局)

テーマを絞り込んで、その分野で意識の高い人に訴えかけて、シティプロモーションの進め方について御意見をいただく、ということも考えられる。

(委員長)

もちろんシティプロモーションを前提とした話で進めてほしい。シティプロモーション以外の話になると、ラコルタでやっていることと変わらなくなるので。

【案件（4）について】

(案件（4）について事務局から説明)

(委員)

市制施行 80 周年記念事業について、来年 4 月が盛り上のピークになるのか。

(事務局)

来年度 1 年間を通して様々な取組を実施する予定。

(委員)

吹田フェスタについては、万博記念公園周辺の渋滞がすごくなりそうだ。

(事務局)

公共交通機関の利用を呼び掛ける。また、バスの増便についても検討している。

【案件（5）について】

《今年度のアドバイザー会議について、各委員からの感想・意見》

(副委員長)

昨年に引続き委員をさせていただいたが、市がどう考えているかについて聞いて、それについて、皆さんで前向きな議論ができて良かった。

(委員)

吹田市に引っ越してきたばかりで、勉強になったし、楽しかった。何か市で手が足りないなどのことがあれば、いつでもお手伝いしたい。

(委員)

シティプロモーションの難しさを感じた。行政の方々がシティプロモーションをどう進めればいいのかについて、苦勞されていると思った。市民サイドで考えると市のことをもっと大々的に宣伝してくれたらいいのにな、と感じている。積極的にシティプロモーション活動をしてほしい。

(委員)

自分が吹田市民でないことが残念でならないくらい、吹田市民の素晴らしさを毎回感じる。今後も媒体として、何かお手伝いできるかもしれない。

(委員)

立場上、いろいろな地域の話聞くが、吹田市はコンテンツがそろっていてまちが整備されている。贅沢な悩みであるが、その中でプロモーションすることの難しさは感じている。少しずつ前に進んでいけばいいと考えている。

(委員長)

シティプロモーションの参加に意欲をもたない人、何かしたいが何をしたいかわからない人、時間がなくて参加できない人がたくさんいて、そのような人たちに市民向けのシティプロモーションがどう効果を発揮するのかというのが一つの観点だった。そういった点では多くの意見をいただけた。市民の方の力が非常に強いということは実感しているので、シティプロモーションのやり方さえしっかりすれば、市民参加ができると思っています。